物流最前線

緩衝材不要の梱包箱

宙づり固定 作業時間、大幅に短縮

スターウェイ

スターウェイ（竹本直文社長、東京都港区）ではリユース・リサイクル可能な梱包箱「イースターパック」を開発。運送、梱包、在庫管理、環境データ収集をパッケージ化した「環境デリバリーパック」を提供している。「ドライバーの協力が重要なカギ」と強調する竹本社長は、物流会社とのパートナーシップを強化し、高付加価値な物流システムの普及を狙う。

100％リサイクル

「何回も使える環境にやさしい梱包資材を提供する」というコンセプトで、一九九九年に会社を立ち上げた。電子部品の納品で用いられるICトレーをリユースするサービスを開始。続いて、百回以上リユースできて、かつ一〇〇％リサイクル可能な素材を使ったオリジナルの通い箱「イースターパック」を誕生させた。

一〇〇％古紙を圧縮成形積層した板紙で、プラスチックと同等の強度を確保。き水性、耐水性にも優れている。特殊ウレタンフィルムのクッションで両側から挟み、製品を宙づりに固定。緩衝材が不要なため、梱包・開梱にかかる作業時間を大幅に短縮し、梱包資材のコストおよび廃棄処理費用も大幅に下げられる。

通常、梱包箱の在庫管理はユーザーが行う。このため、複数の梱包部品を購入したり、調達の手間が生じる。環境デリバリーパックでは、独自のシステムにより、スターウェイがイースターパックの流通・在庫状況を管理。これにより、通い箱で問題となる流通過程での紛失や滞留を防ぐことができる。

バーコードに代わる管理ツールとして、イースターパックにはICタグを採用した。一枚のタグで、梱包箱と中身の製品の流通過程を同時に管理するのが特徴。「製品が何か」「箱がどこから来て、何回使われたか」など各種情報を書き込み、随時書き換えられる。畳んで回収する際の検品でも、ICタグの一括読み取りが有効だ。

しかし、こうした仕組みが動くかどうかは、ドライバーの回収が重要なポイントとなる。「物流業界には、回収というカルチャーが定着していない」と、協業による生き残りを呼び掛ける。

物流会社のメリットも追求している。環境デリバリーパックでは、月額の運送件数を聞いた上で、見積もりと契約を行う。当初の件数に達しなかった場合、次回の契約でコストダウンは行わない。荷主と物流会社の間にスターウェイが介在することにより、荷主からの一方的なコストダウン要請を受けずに済む。

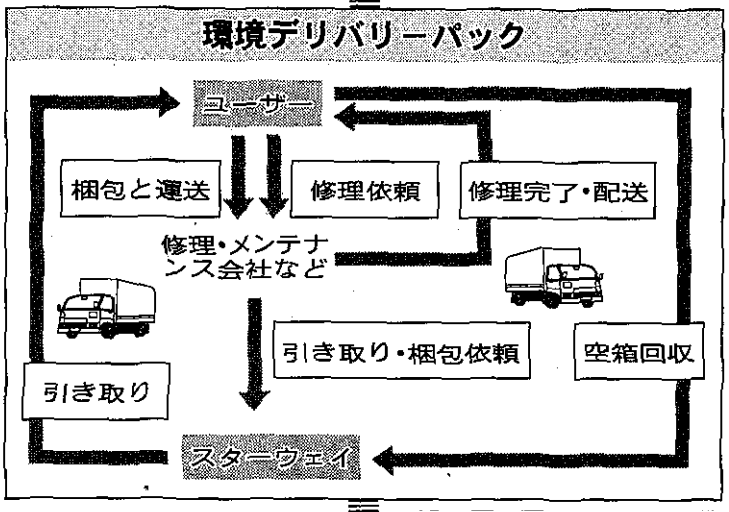
中国を中心とするメーカーの生産シフトに合わせて、海外展開の準備を進めている。昨年、北京に「スターウェイ チャイナ」を設立した。ことし中に、複写機メーカーの修理部品を対象に、中国―日本、さらには中国―欧米でイースターパックを導入したい考え。環境にやさしい梱包資材の国境を越えた流通に意欲をみせる。

（石井　麻里）

改革が必要だった」（竹本氏）。自ら作業マニュアルを作成し、日立物流、福山通運などのバックアップを受け、一年かけて回収のインフラを構築した。

海外展開の準備

梱包箱の提供から梱包、運送、回収、在庫管理、データ収集までトータルなサービスを提供する――。これには、物流会社とのパートナーシップが欠かせない。「運送だけでは特色が出しにくく、コスト競争に陥りやすい。当社のインフラをセールスツールとして利用してもらいたい」と、



2007年2月8日
物流ニッポン新聞　1面